

## 研究・調査報告書

報告書番号 1 4 1	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Effects of concurrent access to a single concentration or multiple concentrations of ethanol on the intake of ethanol by male and female periadolescent alcohol-preferring (P) rats.                  若いアルコール嗜好性雌および雄ラットでエタノールの様々な濃度又は単一濃度のエタノールの同時アクセスがエタノール摂取量に与える影響</p>	
執筆者	
Bell RL, Rodd-Henricks ZA, Kuc KA, Lumeng L, Li TK, Murphy JM, McBride WJ	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2003,29(3):137-48.	
キーワード	
アルコール嗜好性ラット、エタノール、性差	
要 旨	
<p>本研究の目的は若いアルコール嗜好性ラット (生後 30-60 日) において、異なる濃度のエタノールの自由摂取がエタノール摂取量に影響するか、また性差と関連するかについて検討するために実施した。生後 28 日で、雌、雄の幼児ラットを個別で飼育し水や餌は自由摂取させた。生後 30 日を開始として、ラットは単一濃度のエタノール (15%) 又は、様々な濃度のエタノール (10%、20%、30%) を自由摂取させた。性差、エタノールの提示法の差 (単一濃度か、様々な濃度か) について週の平均摂取量で比較検討した。その結果、エタノールの提示状態と週に有意な関係 (相互作用あり) が観察された。はじめの一週間で雄、雌両方とも様々な濃度のエタノールを提示する方が単一ボトル提示よりも多くのエタノールを摂取した。しかし、第二週から第四週にかけて、このパターンは雌のラットのみで観察された。また雄のラットでは一つのアアルコール濃度だけが他のアルコール濃度より強く好まれる傾向があり、その濃度は 30%であった。このような濃度による嗜好は雌のラットでは観察されなかった。本実験の結果は、若い P ラットはすでに高エタノール飲酒行動を獲得しておりエタノールの摂取を増加していくという以前の研究の結果を確証するものである。</p> <p>以上の結果より、高エタノール摂取量を促進するのは内在性の遺伝的因子が発達の段階で存在することを示唆している。</p>	